

令和6年度 追跡評価書

- 研究機関 : (株)NTTドコモ(現・NTT コミュニケーションズ(株))
- 研究開発課題 : IoT 共通基盤技術の確立・実証(課題Ⅲ 多様なIoT サービスに活用可能なIoT データ形式共通化・正規化・抽出技術の確立)
- 研究開発期間 : 平成 28 年度 ～ 平成 30 年度
- 代表研究責任者 : 葛原 毅

■ 総合評価

(総論)

COVID-19 に影響を受けた社会情勢により、プロジェクトが難しい面もあったが、技術開発はしっかり行われた。本プロジェクトで扱われるIoTデータは交通分野に限定されているが、今後は異なる提供元のデータと組み合わせ、メリットを十分アピールするなど、IoT 共通基盤技術の推進に期待する。

(被評価者へのコメント)

- 社会情勢もあり不十分な面もあったが、技術開発はしっかり行われた。
- プラットフォームや標準化への貢献があると良かった。
- IoT プラットフォームでありながら、並行する課題Ⅰ、Ⅱとの連携がないのが残念である。
- IoT データといっても交通分野に限定したこともあって、データの提供元として公共データが中心であり、異なる提供元のデータを組み合わせて用いることのメリットを十分アピールすることができなかった。

(1) 政策目標の達成状況等

(総論)

政策目標は十分達成されており、デマンド乗合、サイクルシェア、サイネージに展開できる可能性を示したことは評価できる。

(被評価者へのコメント)

- デマンド乗合、サイクルシェア、サイネージに展開できる可能性を示したことは評価できる。
- 残念ながら COVID-19 の時期に重なり、人の動きが鈍った時期の事業であったことは悔やまれる。
- 政策目標は十分達成されている。
- プロジェクトの成果の一部のノウハウを活用し、未来のタクシー乗車需要を予測するサービス「AI タクシー」を 2018 年 2 月 15 日より法人企業向けに日本全国で提供を開始した(2022 年 6 月 15 日サービス終了)。

(2) 成果から生み出された科学的・技術的な効果

(総論)

データ形式共通化は十分な形で示されていないが、複数のサービス実証を通じ、人々の行動変容を強く促す新しい情報配信技術等など様々な成果が得られた。

(被評価者へのコメント)

- データ形式共通化は十分な形で示されていないが、IoT 共通基盤ができたことは評価できる。
- 実証から生まれた様々な成果がある。
- 行動経済学に基づき、パーソナライズされた情報をスマートフォン等に配信し、人々の行動変容を強く促す新しい情報配信技術の研究開発につながった。

(3) 副次的な波及効果

(総論)

プロジェクトを通じて、異なる業界や分野の企業との連携がなされているところがある。

(被評価者へのコメント)

- とくに見当たらない。
- プロジェクトを通じて、異なる業界や分野の企業との連携がなされた。

(4) アウトカム目標の達成に向けた取組計画の達成状況等

(総論)

本プロジェクトは計画通り進められ、アウトカム目標を十分に達成した。プロジェクトで得られた成果の一部を活用し、「AI タクシー」サービスの事業展開を行った点は評価できるが、社会展開は不十分な面もある。

(被評価者へのコメント)

- IoT 共通基盤を構築できたことはすばらしいが、COVID-19 の影響もあり社会展開は不十分な面もあった。
- 十分に目的を達成した。
- プロジェクトの成果の一部のノウハウを活用し、未来のタクシー乗車需要を予測するサービス「AI タクシー」を 2018 年 2 月 15 日より法人企業向けに日本全国で提供を開始した(2022 年 6 月 15 日サービス終了)。

(5) 政策へのフィードバック

(総論)

実証実験で得られた知見をスマート IoT 推進フォーラムで普及活動した点は有益であった。他方、IoT プラットフォームとして並行する課題 I、II の研究開発と本プロジェクトの連携が図られた方が望ましかった。

(被評価者へのコメント)

- とくに見当たらない。
- IoT プラットフォームでありながら、並行する課題 I、II との連携がないのが残念である。
- 本プロジェクトにおいて得られた知見の応用を「スマート IoT 推進フォーラム」で普及活動した点は有益であった。